

式辞

いつになく早い春の訪れを感じる今日の佳き日に、

大阪府立 泉陽 高等学校 第73回卒業証書授与式を
挙行できますことは、教職員一同この上もない喜びであり
ます。

保護者の皆様、お子さまのご卒業おめでとうございます。
この3年間、様々なご苦労があったことと拝察いたします。
お子様を支え、育まれてきたことに対して敬意を表すると
ともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただ
きましたことに 心より感謝申し上げます。

今年の卒業式は、できるだけ多くの保護者の方々に
出席していただけるよう、このフェニーチェ堺で挙行する
ことになりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染
防止の観点から、会場内の人数制限をさせていただきまし
た。ご理解願います。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました355名の皆さん、
卒業おめでとうございます。

皆さんの最終学年であった、この1年間は、世界にとつて
も本校にとつても後世に語り継がれるであろう1年になり
ました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月になっ
ても臨時休業が継続され、入学式も始業式も中止となり
ました。学校から生徒たちの笑顔や元気な声が失われ、

学校は今後の対応に関して教職員が緊急会議をする場と変わりました。

この間、生徒の皆さんの貴重な高校生活は失われ、目標にしてきた部活動の大会の多くが中止となりました。

生徒の皆さんがそれらを受け入れるのは大変なことだったと思います。そうしたなかで、私たち教職員は、学びを

保障するため毎日の授業だけでなく土曜日や長期休業を有効に活用していくこと、生徒の成長につながる行事を

できる限り実施していくこと、という方針を決めました。

9月には多くの学校で中止になった文化祭や体育祭を開催しました。

「感謝・満喫・完全燃焼」のテーマのもと、「文化祭があるのは当たり前じゃない！」を合言葉に、泉陽生による泉陽生だけの文化祭を行いました。全校生徒をまとめた生徒会執行部の見事なリーダーシップのもと、3年生は、受験という制約があるにもかかわらずクラスが一体となつてコロナ禍でできる模擬店を考案しました。

体育祭は、「超克く青春(アオハル)を奪還せよ」の

テーマのもと、競技種目をどうするのかを考えるところから始まりました。コロナ禍で、どんな競技内容なら実施できるか、生徒会執行部を中心に考え、我々教職員には

思いつかないようなアイデアを出してくれました。新しい競技の学年種目をはじめ、全ての競技に本気で取り組んでい

る生徒たちの姿を見て、実施を決断して良かったと心から思いました。

73期生の皆さんは、これらの行事を通して、120周年を迎えた泉陽高校の歴史と伝統を受け継ぎ、それをさらに前へ、深く、そして新しくしてくれました。

人は結果よりも、そこに至るまでの過程や頑張りを見て感動します。私は、そうした皆さん一人ひとりの営み、そして成長に大きな拍手を送りたいと思います。

このような生徒がたくさん学び、卒業していくこと、それが本校の最大の誇りです。

皆さんは高校卒業後、大学などに進学し、いずれ社会の一員として活躍することになります。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、私たちの価値観や社会のあり方に大きな変化をもたらしました。ポストコロナに向けた新たな潮流の中で、地域活性化と持続可能な社会を同時に実現していくためには、今、何を見て、考え、行動していけばよいのかを考える機会を私たちに与えてくれました。

特に、ウィズコロナの新しい活動において、大きな役割が期待されている「IC」が地域社会の内と外をつなげる機能に注目して、ポストコロナの社会像を考える必要があります。

皆さんには、自立・分散型社会が地域の特性に応じて相互に支え合う地域循環共生圏、いわゆる「ローカルSDGs」を手がかりに、持続可能な社会の実現をめざす

ポストコロナの地域社会の担い手になって欲しいと思います。

長い人生を一日に例えれば、皆さんはまだ朝の早い時間を過ごしているにすぎません。これからの長い一日をどのように過ごすのか、どのような道を歩むのか。決めるのは皆さん自身です。

まずは、「今の自分にしっかり向き合ってください。」そして、これから出会うさまざまな人と意見や思いが一致するとは限りませんが、それでも相手を理解したいという気持ちを持って接することで、相手も自分のことを理解してくれるようになります。お互いを尊重し、対話を重ねる中でこそ、「自分たちの常識を超えられる瞬間」が生まれます。

いよいよ泉陽を旅立つ時がやってきました。「今の自分を超える旅」に出ます。そこでは成功することも挫折することもあるでしょう。一生懸命努力してもうまくいかない時もあるでしょう。そんなときは、つぎの言葉を思い出してください。

「森 絵都」さんの「カラフル」という小説のなかの言葉で

す。

「人は自分でも気づかないところで、だれかを救ったり苦しめたりしている。

この世があまりにカラフルだから、ぼくらはいつも迷っている。

どれがほんとの色だかわからなくて。

どれが自分の色だかわからなくて。」

「今日と明日はぜんぜんちがう。明日っていうのは今日の続きじゃないんだ」

結びに、皆さんの前途が健康で幸多からんことを祈念して式辞とします。

令和3年3月2日

大阪府立 泉陽 高等学校長 武田 温代